

(法第28条第1項)

令和元年度 特定非営利活動に係る事業報告書 (第12期)

千葉県松戸市新松戸四丁目 257 番地の1ニューホームズマンション1階
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド
理事長 三浦 輝江

1 事業の成果

定款書き換え

- ・総会において定款の変更が承認された。
- ・男女共同参画社会の形成の促進を図る活動を加えた。
- ・Jキッズ事業をJボランティア事業に名称変更した。
- ・リトミック事業と子育てセミナー事業を子育て支援事業に名称変更した。

男女共同参画活動

- ・埼玉県「ほっと越谷」市民公募型男女共同参画事業に選ばれ、「人間関係を豊かにするコミュニケーション講座～心の境界線（バウンダリー）を知ろう～」講座を開催。
- ・松戸市男女共同参画女性活躍推進講座の「バウンダリー（心の境界線）を知って、No！と言える自分になろう」を開催。

ユース事業

- ・ユーススペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となっている。
- ・2014年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの自己肯定感を高める出張授業を、今年度も県立松戸向陽高等学校、近隣の市立小金中学校の計2校で行った。アンケートによると、2校とも授業が始まる前は「自分のことが嫌い」という生徒がほとんどだったが、授業の終わりには「自分のことを大切だと思える」という生徒が増えた。
- ・ユーススペースで育った高大生数名が、松戸市中高生支援事業ゲットユアドリームでファシリテーターとして活躍、学習支援事業でのボランティアスタッフとして活躍した。
- ・令和2年3月は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、ユーススペースの開催を中止した。

ゲットユアドリーム事業・松戸市委託事業

- ・ゲットユアドリームは、松戸市中高生支援事業として委託されている。
- ・松戸市立新松戸南中学校：1年生 162名+特別支援 5名（アンケート回答者数：136名）、松戸市立小金中学校：2年生 235名（アンケート回答者数：202名）、松戸市立旭町中学校：1年生 95名（5名長欠）（アンケート回答者数：89名）、松戸市立古ヶ崎中学校：1年生 124名（アンケート回答者数：109名）、松戸市立根本内中学校（新型コロナウイルス感染拡大防止により開催中止）、以上計4校で行った。
- ・4回のゲットユアドリーム（当初5回の予定が1回は新型コロナウイルス感染拡大防止により開催中止）で、計42名（新南中：10名・小金中15名・旭町中8名・古ヶ崎中9名）、延べ人数（重複あり）の講師の方々にお話しいただき、様々な価値観や職業観に触れ、将来について考える場を提供できた。小金中学校の生徒からは講師の方々それぞれに感想と感謝の文章をいただいた。今年度は、子どもわかもの課委託事業として新たに3校（松戸市立新松戸南中学校、松戸市立小金中学校、松戸市立旭町中学校）が開催の運びとなった。
- ・今回も学校と連携したことにより、より多くの中学生たちに将来について考える機会を提供することができ、ほとんどの生徒がこれまでより将来について考えることができた」と回答した。

学習支援事業・松戸市委託事業

<学習面について>

- ・今年度は3年生が参加者の半分弱を占めた。
- ・勉強合宿（集中特訓）を2回行った（8月15～16日、12月26～27日）ほか、自習スペースを作った。長期休暇を一緒に過ごすことで、生徒同士の繋がりが強まり、受験に向けて共に励まし合う姿を見ることができた。
- ・夏休み明けからは、申込みのコースでない日も「自習させてください！」と会場に来るなど、モチベーションの変化を感じた。その中で国立大学附属高校を受験したいという生徒や、学校見学で小金高校に行きたい、という情熱を抱き、目標に向けて熱心に努力する生徒をはじめ、自ら主体的に志望校を決めていった。
- ・前期入試の合格率は6割だったが、後期入試では1人を除き全員が合格できた。その1人も、自分が行きたい志望校のために2月は毎日、泣きながら勉強をしていたが、この経験はとても大きかった、と話してくれた。そんな受験生の姿を見て、1・2年生も良い刺激を受けている。
- ・保護者会は、日程を夏休み前に設定し、長期休暇に入る前に受験対策に向けての具体的な話が出来て保護者にも好評だった。12月～1月にかけて、保護者面談、生徒面談をそれぞれ実施、家庭と協力体制で生徒を支援できるよい機会となった。
- ・英語の苦手な生徒に対する英語教育も積極的に取り入れ、英語を学習するきっかけ

くりを年間通して行った。

<居場所づくり>

- ・毎回休憩時間に、一人一人が安心できる場所となるためのルールを必ず読み上げ、利用者に守ってもらう取り組みを継続実施。生徒自らが読み上げてくれる機会も昨年度より増えて、生徒が居場所を作る主体になるよいきっかけとなった。
- ・イベントは、12月クリスマス会を実施。昨年まで参加していた生徒がスタッフとして定着する流れができてきて、利用者と先輩が積極的に関わっている姿も見ることができた。

<その他の取り組み>

- ・SNS、インターネット、ゲーム、コミュニケーションスキルや就職について等々、様々な分野に関して、昨年に引き続き自立に役立つ情報を休憩時間に提供してきた。
- ・昨年度までと少し違った点は、2学期に入って、受験を控えている生徒の中に情緒的に不安定になる生徒がとてもしなかった。スタッフや利用者どうしの良好な関係性が一因かと思われる。一人一人が受け入れられ大切にされる、安心できる居場所作りとなった。
- ・個別に話を聞くと、いつもは元気いっぱいなのに家族や学校の人間関係の問題で悩んでいることを話してくれる生徒もいた。「自分と向き合ってくれている」という受容感も大切であると感じた。学校でも、家庭でもない、利害関係のない「サードプレイス」としての役割を果たすことが微力ながら果たすことができた。

J ボランティア

- ・名称を J ボランティアに変更。小学生向けのボランティアから中高大生向けボランティアサークルに移行した。
- ・J ボランティア登録の説明会を2回開催。4月20日、参加人数9名（中学生…5名、高校生…4名）、7月24日の参加人数4名。
- ・ゴミ拾いは新松戸祭り後のゴミ拾いに向けて学生たちが主体的に企画し実施。3回の打ち合わせを重ね、新松戸まつり当日のゴミ拾いは7名の参加があった。
- ・被災地支援
 - ①8月5～8日、東松島被災地支援、参加人数6名。
 - ②9月9～11日、10月18、19日福島被災地支援ボランティア、参加人数9月が5名、10月が2名の参加。
 - ③7月29.30日8月20日、デイリーロイックボランティア（長期休みの小学生の居場所をサポートするボランティア）参加延べ人数8名。

おやこDE広場旭町、子育てコーディネーター・松戸市委託事業

- ・シニア交流センター3階にある広場として、高齢者との交流の機会を持ち、毎月の読み聞かせ&誕生会にはシルバー人材センター女性部と有志の方、さらに馬橋西包括支援センターより紹介されたボランティアの方が加わって下さり親子との交流を行った。
- ・夏まつりは松戸市はつらつクラブ連合会の方に、12月のクリスマス会&誕生会では、馬橋西包括支援センターの方にお手伝いを頂き開催。
- ・敬老感謝会には、シルバー人材センター、はつらつクラブの方々に来ていただき、ゲームや手遊びで一緒に楽しい時間を過ごし、利用者さんに協力して作っていただいたカードを感謝の気持ちを込めてお渡しして喜んで頂いた。
- ・旭町中の夏休みボランティアは、合計10回、30人の生徒さんが参加。初めて、代表の生徒さん3人と事前打ち合わせを行った。
- ・旭町中ふれあい体験授業は、3クラス73名が参加。中学生にとっては出産、育児についての貴重なお話を聞く機会となった。お母さんたちも、「話すことで出産の感動を思い返し、また頑張ろうと思えた」、「自分の子が大きくなるとこのようになるんだと将来を想像できて良かった」等の感想が聞かれ、双方にとって有意義な時間となった。
- ・ママパパ学級3日目を広場で2回開催したが、参加者はそれぞれ3組にとどまり、昨年と比べ、かなり減少している。

子育てコーディネーター

- ・子育てに関する相談業務を行った。言葉が出ない、なかなか歩かない、というような発達に関する相談、離乳食や幼児食ついて、また夜泣きや排便状況などの相談など子育てに関する様々な相談があり、働くことを希望している方からは保育園入園に関わること、保育園選びについての相談が多くあった。
- ・保健師さんが介入して、発達の通所施設に定期的にお子さんを預けられるようになった方も、時々広場を利用され、コーディネーターやスタッフと話すなど、居場所となっており継続的支援の必要性を改めて感じた。
- ・年度末にはコロナウイルス対策で、突然、広場が閉鎖となり、利用者さんたちからも「ここが閉まっちゃうと困る。明日からの行き場をどうしよう」「外出自粛とかで家に居ると、虐待が増えそうですよね」と心配の声が聞かれた。

子育てセミナー

- ・市内各おやこ広場に置かれたチラシや松戸市の子育て情報、参加者からの口コミや県外からの参加者も増える。
- ・ランチ提供もママ達がリラックスできる場となり喜ばれている。

リトミック

- ・ 毎回 10 組位の親子が参加されており、リトミック体操の後、子育ての悩みなど話し親子共に安心して過ごせる居場所となっている。
- ・ 1 月から SRC ビルで行う回数を減らし、出張リトミックで様々な地域に出ていくなど活動の幅を広げている。

普及啓蒙

- ・ スマートフォンやタブレットでの閲覧者が多いことから、モバイルファーストなデザインのホームページへの移行に着手し、閲覧数の多い主要事業での移行が完了している。
- ・ 更新頻度を大きく向上させることができ、事業内容に改訂があった J ボランティアのページを、対象者である中高大学生向けに速やかに公開できた。
- ・ 特にユースに関わる事業では、ブログなどを通じて活動の様子のタイムリーな一発信を行い、活発さをアピールすることができている。
- ・ 活動の様子を伝えるために広報誌 J タイムズを 3 ヶ月ごとに発行した。
- ・ Facebook の頻繁な更新を行い、ゲットユアドリーム や J ボランティアなどの活動中の様子を発信し、閲覧者に活動の具体的な様子を伝えるとともに、ホームページの記事を配信するためにも使用し、活動の詳細を伝えるための橋渡しとしての役割を果たすようにした。
- ・ パンフレットのレイアウト変更を行なって最新の写真や補足説明を増やし、活動内容を読者が具体的にイメージできるように改善した。
- ・ 委託事業においては学習支援事業の受講者数やボランティア奉仕者数、アンケート結果の掲載など、具体的な数値を掲載することで、事業成果の見える化に努めた。

2事業の実施に関する事項 年度 第12期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の平均人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額（千円）
① ユース事業	中学生・高校生向けに心の相談室の設立する。	月20回	SRCビル2F多目的ホール	2人	延べ： 中学・高校生 ユース(1,804名)	72
② ゲットユアドリーム事業	様々な職業の人生の先輩から話を聞き、皆で将来について考えるワークショップ。	年5回	松戸市立5中学校内1校はコロナの影響で実施なし	20人	中学生(616名) 小学生(494名) 内アンケート回答者数536名	485
③ 中高生の居場所づくり	中高生の見守りを行い、必要に応じて学習支援や進路相談に応じる。	毎金曜日	青少年会館(1階ロビー、三階和室)体育館1回	3人	延べ:(729名)	809
④ リトミック事業	子どもが心身共に自立した大人になるための企画・運営(リズム体操など)する。	月4回 木金曜日 (各2回)	SRCビル2F多目的ホール	4人	延べ： 未就園児(220名) 子ども達の親を含む	178
⑤ 子育て事業	バウンダリーについての講演会や研修会を開催。 カウンセリングを含む。	月2回 木金曜日	SRCビル2F及び3F多目的ホール	23人	延べ： 松戸市及び近隣の市民(42名)	
⑥ Jボランティア事業	中学・高校、大学生を対象としたボランティア活動。	年11回	東松島、福島	5人	延べ： 中学生26名・高校生26名 大学生6名	115
⑦ 普及啓発事業	各事業についてのホームページを開設しチラシ配布等により活動内容を紹介する。	随時	SRCビル2F多目的ホール	2人	不特定多数	97
⑧ おやこDE広場 旭町	乳幼児親子の集いの場所を提供する。	月17回	シニア交流センター内	3人	延べ： 3,740名	4,452
⑨ 学習支援事業 (松戸市委託事業)	小中学生に勉強を教えるだけでなく、居場所づくりとしての機能をもち、学力向上を通し、自立する力を養う。	月木火金 (中学)週 2回月金 (小学)週2 回等	SRCビル2F多目的ホール	8人	延べ： 2,124名(中学生) 330名(小学生)	8,933
⑩ 子育て支援 コーディネイト	子育ての相談、子育て支援サービスの紹介、子育て支援機関との連携する。	月18回	シニア交流センター内	1人	延べ： 松戸市及び近隣の市民(70名)親子で 140名	2,199

計 17,340千円